

# 地域の防災に関するアンケート調査

## 報告書

- 地域版避難所運営マニュアルの作成と見直し状況
- 仙台市地域防災リーダー（SBL）の活動状況

平成27年12月

青葉区連合町内会長協議会  
防災担当理事

# 地域の防災に関するアンケート

## 《 調 査 概 要 》

青葉区連合町内会長協議会  
防災担当理事

### 1 目 的

(1) 地域版避難所運営マニュアルの作成が各地区で進み、完成したマニュアルをもとに防災訓練を実施したところも多い。そこで、防災訓練等を通して確認されたマニュアルの課題を連合町内会の間で共有し、より良い地域の防災体制づくりにつなげる。

(2) 地域防災の中核を担う人材として活躍が期待される仙台市地域防災リーダー(SBL)について、青葉区連合町内会長協議会では昨年度、活動実態調査を実施した。その結果からSBLが地域で活躍できる環境づくりのために、①SBLの認知度向上 ②連合町内会組織内での位置づけと活躍の場確保 ③連合町内会の調整による地域内の広域的な活動への支援などを提案した。本年度においては、昨年度の提案にかかわる状況を把握し、SBLの活動環境づくりを一層後押しする。

### 2 アンケートの内容及び回収率

#### (1) 地域版避難所運営マニュアルの作成及び見直し状況について

対象：連合町内会長

配布数 38      回答数 32      回収率 84.2%

#### (2) 仙台市地域防災リーダー(SBL)の活動状況について

①対象：平成24年度から平成26年度にSBLを推薦した連合町内会長

配布数 33      回答数 27      回収率 81.8%

②対象：平成24年度から平成26年度のSBL養成講習会受講者

配布数 112      回答数 90      回収率 80.4%

### 3 方 法

記名式調査票の郵送による配布・回収

### 4 調査期間

平成27年9月11日(金)～9月24日(木)

# アンケートのまとめ

## ■ 地域版避難所運営マニュアルの作成と見直し状況

### 1 作成状況

約7割が作成済み。未完了の地区はいずれも平成28年3月末までの完成を目指している。未着手地区の一部も、現在、下準備等を進めているところである。

一方、商業施設が大部分を占める青葉区中心部では、「マニュアルの作成は地域の実情に合わない」と判断しているところもあり、マニュアルが整備されるのは最終的に区内9割の地区となる見込みである。

### 2 マニュアルの見直し実施状況

見直しを行ったのは45%。名簿の変更等のほか、住民に身近な集会所（がんばる避難施設）の記載や、実働的な体制づくりに取り組んでいる。

### 3 見直しの必要性とその内容

アンケート実施直前の9月10日から11日に、市内で初めてとなる大雨特別警報が発表され、青葉区内では深夜から未明に43カ所の避難所が開設された。多くの地区のマニュアルは地震を想定したものだったことや、東日本大震災以降、初めて避難所開設の対応に追われたところが大半だったことから、地震以外の災害や避難所開設の初期対応についての意見が多くみられた。

夜間に避難勧告が出され、道路の冠水や河川の氾濫、土砂災害の危険がある中で、どのような避難経路をとるか、災害弱者の誘導をどうするかなどの問題点を挙げている。

避難所開設にあたっては、役員への連絡や物品管理で戸惑う場面もあり、その反省から、誰にでも分かりやすい避難所開設の手順づくりや、連絡体制の強化などを課題としている。

## ■ 仙台市地域防災リーダー（SBL）の活動状況

青葉区連合町内会長協議会は、昨年度、SBLが地域で活躍できる環境づくりとして、①SBLの認知度向上 ②連合町内会組織内での位置づけと活躍の場確保 ③連合町内会の調整による地域内の広域的な活動への支援—などを提案した。本年度は、昨年度の提案内容に基づいて質問項目を設定し、連合町内会長及び連合町内会推薦のSBL、公募のSBLへ調査を行った。

### 1 連合町内会内での役職等

SBLになっている方の中で、約6割は防災担当またはそれ以外の役員に就いているが、もともと役員に就いていた方がSBLになった例が多いとみられる。女性や公募のSBLは役員になっている割合が低く、女性は26%、公募は15%程度にとどまり、女性の5割、公募の4割は、防災部会員等の役職も割り当てられていない状況である。

### 2 活動状況

連合会の役員を務めている場合、「自ら進んで積極的に活動できる」「企画段階から参加を求められ、中心的な役割を担っている」と回答したのは合わせて61%だった。これに対し、役員でない場合は上記2つの回答を合わせても26%、特別な役職を持たない場合は12%となり、連合町内会内での立場がSBLとしての活動にも影響しているのではないかと推測される。

### 3 SBLの周知

防災会議や防災訓練の際に他の参加者に紹介している例が多いが、連合町内会だより等その他の周知方法はあまりとられておらず、周知の機会は限られている。

一方、SBL自ら防災ニュースなどを発行している例もあった。

### 4 連合町内会長とSBLの意識の差異

連合町内会長、SBLの双方から回答があったのは23地区。このうち、SBLの意識傾向がある程度把握できるとみられる3人以上のSBLから回答のあった12地区について、連合町内会長とSBLの回答を比較した。

連合町内会長が、SBLの活動を「積極的」「中心的」と評価しているのに対し、SBLも同様に「積極的」「中心的」に活動できていると回答したのは4地区、SBL側は「中心的ではない」との回答傾向を示したのは5地区、「SBLとしては声がかからない」との回答傾向は3地区（うち2地区は「中心的でない」と重複）あった。連合町内会長の「消極的だ」の評価に、SBL側は「中心的に活動している」「声がかからない」との回答傾向を示したのはそれぞれ1地区あった。

# 今後に向けて

今回のアンケート結果をもとに、地域の防災力向上へ、以下のような方策を提案したい。

## 地域版避難所運営マニュアルの見直し

### ①地震以外の災害想定

未曾有の大規模災害が全国各地で発生している昨今において、地震だけでなく、大雨や大雪、暴風等による災害を想定した対策を検討することは喫緊の課題となっている。大雨のように徐々に危険度が高まっていく災害時において、冠水や河川の氾濫、土砂災害等の発生が予測される地域の危険箇所と、避難経路や要援護者を含む災害弱者の避難誘導方法など、態勢を確認しておくことが求められる。

### ②補助避難所、がんばる避難施設の開設対応

夜間の悪天候下で指定避難所へ行くのが困難だったり、避難所そのものが使用不可となったりした場合も想定し、補助避難所やがんばる避難施設（集会所等）の対応について、事前協議を深めることも今後は必要となる。

### ③だれにでも分かりやすい避難所開設手順づくり

予定していた担当者が必ずしも避難所に来られない場合もあるため、いち早く駆け付けることのできた方が、物品の取り出しや各役割の振り方、受付の設置など、戸惑いなく進められるよう手順書を見直すことも重要である。

## 地域防災リーダー（SBL）の活動環境づくり

### 1 連合町内会の中での役割の明確化

SBLが活躍するには、一定の発言力と発言の機会を持つことが重要なため、できるだけ連合町内会内での役割を明確にすることが望まれる。SBLと執行部、またはSBL同士が意見を交わす機会が増えるよう工夫し、意思疎通を容易にすることで、SBLが活躍しやすい環境づくりを進められることが期待できる。

### 2 SBLの活動に対する連合会役員の理解促進

SBLの存在と役割については、広く地域住民に理解されることが望ましいが、SBLの役割を明らかにし、活動の機会を確保する上では、まずは連合町内会役員の理解が必要と考える。地域防災において、SBLがどのような役割を果たし、身に付けた知識や技術をどう生かしていくかについて、理解を深める機会を設けたい。

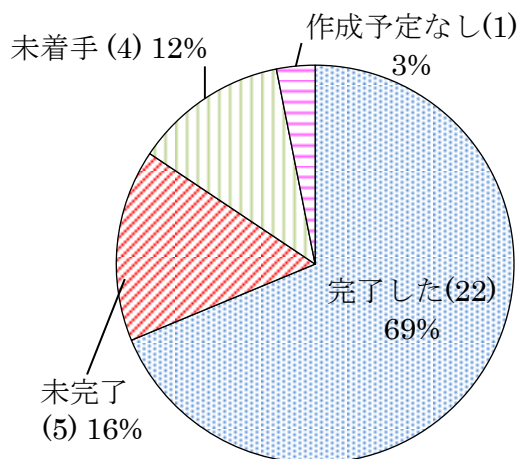
### 3 女性が活躍しやすい環境づくり

日常の町内会活動と同様に、災害時に女性の力は不可欠であり、日ごろの防災においても女性の視点を取り入れられるよう、役員への登用など女性が活躍できる環境づくりの推進が必要である。女性SBLのいない地域では、防災担当役員に入ってもらおうなどの対応を検討することが望ましい。

## 地域版避難所運営マニュアルの作成、見直し状況

### ■ 回答 連合町内会長

#### 1 避難所運営マニュアルの作成状況は？



※グラフ中、カッコ内の数字は回答数

#### 【未完、未着手の理由】

- ・市のマニュアルを生かして防災訓練を実施してきており、緊急性を感じていなかった
- ・町内会の体制が整備されていない
- ・マニュアル作りに向け事前調査等を実施中
- ・より完璧なものという思い入れから作業が遅れている
- ・地域事情から不要と考えている

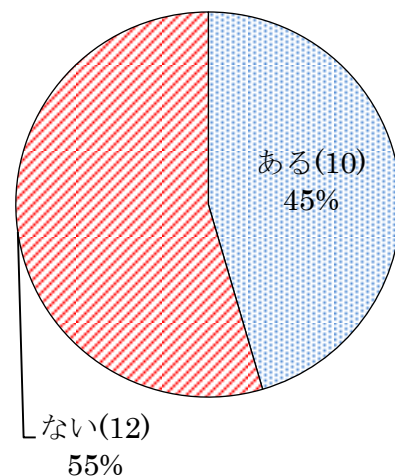
未完了とした5地区は、いずれも平成27年12月から平成28年3月までに完了予定と回答している。

#### 2 避難所運営マニュアルで、見直したところがありますか？

(1で「完了」と回答した地区への質問)

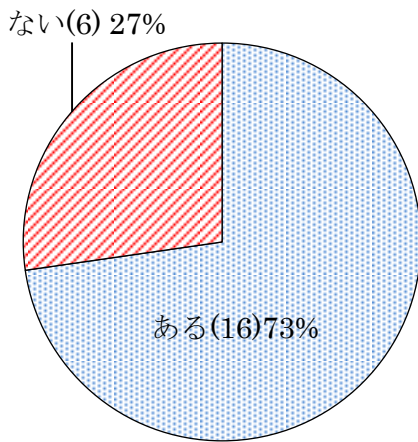
#### 【主な内容】

- 担当者の変更による名簿の改訂
- がんばる避難施設について追加
- 夜間にも対応できる本部体制へ見直し
- 会員町内会減少に伴う組織の変更
- 連合町内会役員に避難所運営各班長の職を割り振っていたのを、実際に集まった人の中から班長を選ぶようにした。役員はみな高齢で、災害時にすぐ集まることができない可能性があるため



### 3 避難所運営マニュアルで、今後、見直しの必要を感じているところはありますか？

(1で「完了」と回答した地区への質問)



#### 【主な内容】

- 避難所開設初期の物品（受付用品、机、椅子等）の保管場所や持ち出し方、避難者カード・避難者名簿の集計方法などについて、初心者でも分かるように手順を追加する
- 早い段階で独自のマニュアルを作成したため、仙台市のひな型と照らし合わせ、不十分箇所を補足していく
- SBLを本部体制に組み入れる
- 指定避難所、補助避難所、福祉避難所、がんばる避難施設の連携方法について
- 町内会や関係団体の役割分担の見直し
- 要援護者を含む災害弱者への対応
- 避難所開設時の連絡の迅速化のため、運営委員会組織を簡素化する
- 大雨等地震以外の災害時の対応
- 大雨による冠水時の避難経路や避難場所の検討
- 人口増加地域と減少地域への対応

### 4 自由記入欄

○防災訓練では、地域の参加者が少なく関心が薄い。半面、中学生 60 人と高校生 30 人が参加し、スタッフとして班活動の体験と防災・減災訓練に挑戦し、技術の習得に努めた。地域の将来を担う貴重な人的資源の発掘と育成につながる。

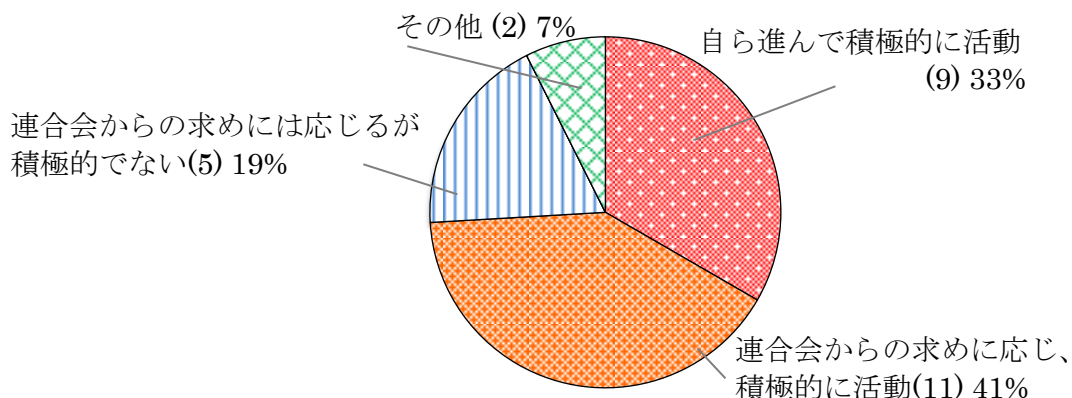
○大雨時の地域の地形などをもう一度確認する必要がある。

# 仙台市地域防災リーダー（SBL）の活動状況・1

## ■回答 連合町内会長

※グラフ中、カッコ内の数字は回答数

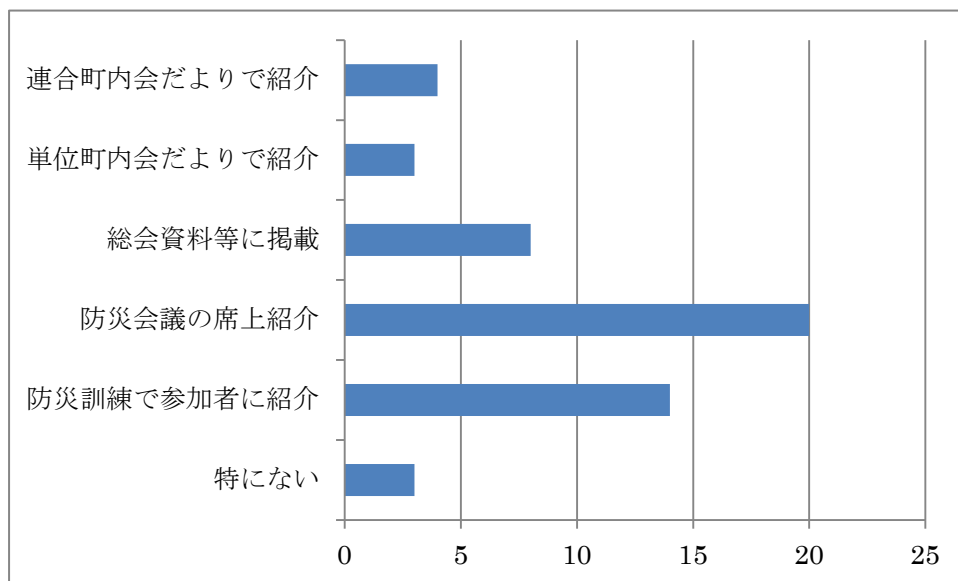
### 1 連合町内会推薦のSBLの活動姿勢は？



### ◆公募のSBLの活動姿勢（記述式）

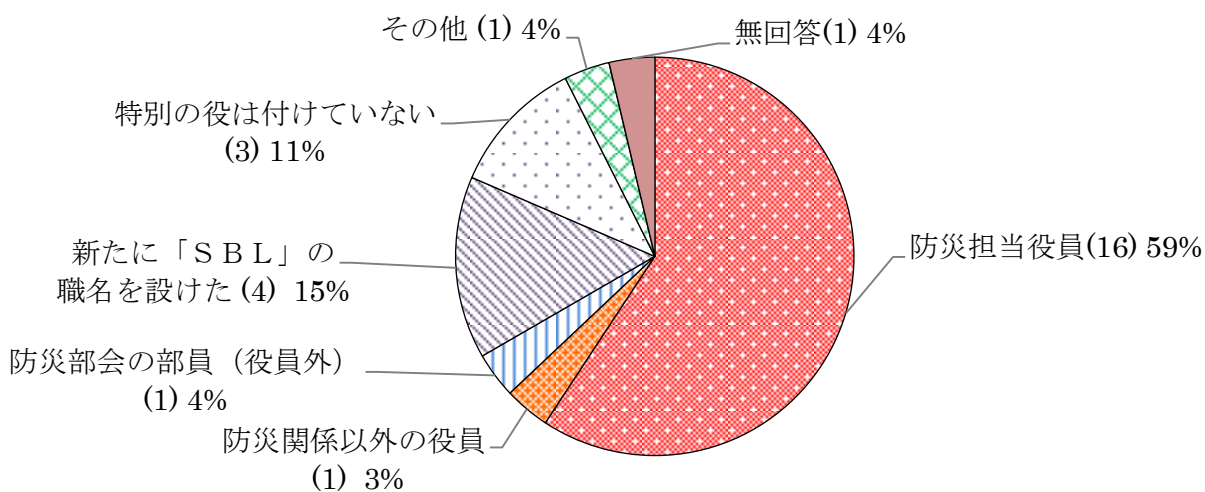
- 自ら進んで積極的に活動している
- 豪雨の際、町内会長の求めに応じ、町内の見回りに従事した
- 一部の人は連合町内会からの求めに応じ、積極的に活動している
- 単位町内会で活動しているようだ
- 名前しか知らない。なぜ資格を取得したのか疑問
- 一度も打ち合わせをしていない

### 2 SBLを地域で知ってもらうために取り組んでいること（複数選択）





### 3 連合町内会推薦のSBLを連合町内会の組織の中でどのように位置づけていますか？



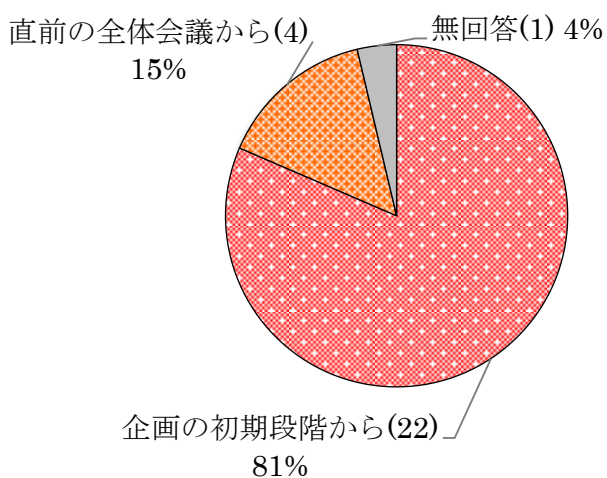
※グラフ中、かっこ内の数字は回答数

#### ◆公募のSBLの連合会組織での位置づけ (記述式)

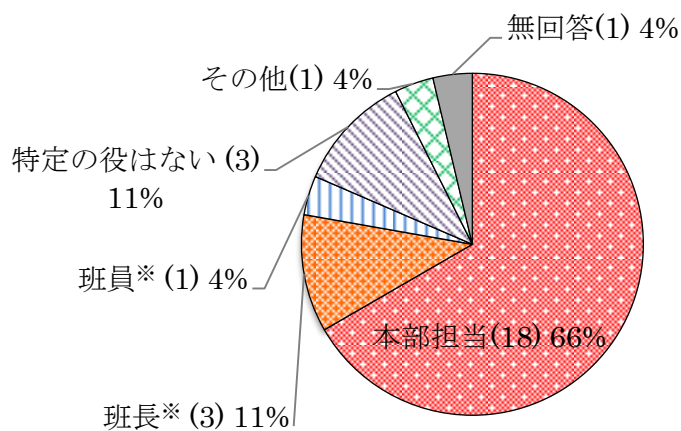
- 連合町内会推薦SBLと同様
- 避難所運営委員会役員
- 防災協議会役員
- 役には付けていない

### 4 地域の防災活動でのSBLのかかわりについて

#### (1)-1 防災訓練の企画段階

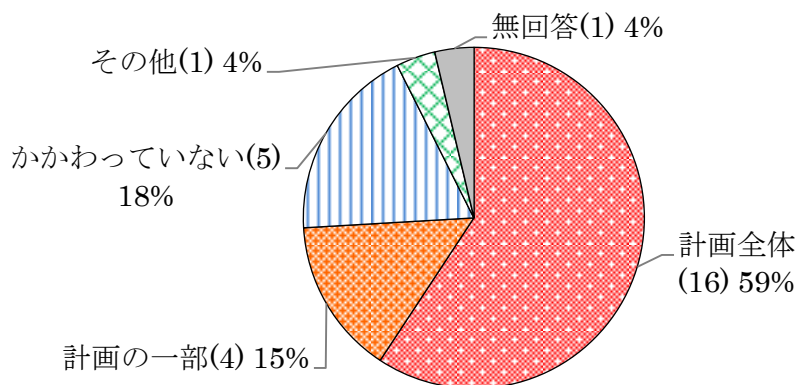


#### (1)-2 防災訓練の当日の役割



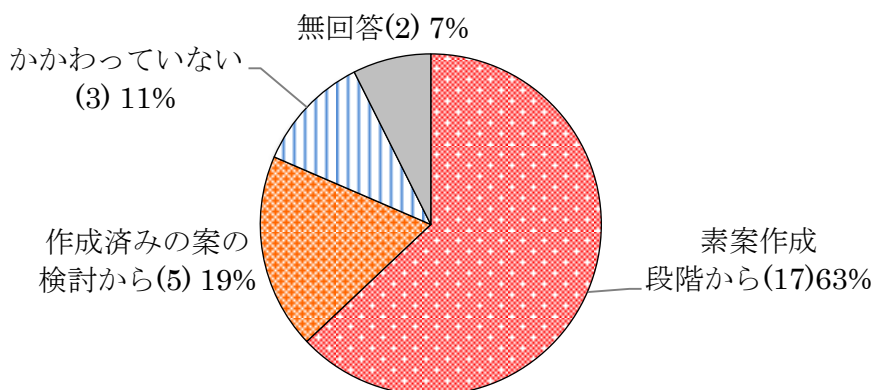
※「班」は避難所運営時の各班(広報班や衛生班、食料班等)

(2)-1 防災計画等へのかかわりの程度



※グラフ中、かっこ内の数字は回答数

(2)-2 防災計画等へのかかわり段階



5 連合町内会以外の事業（単位町内会や小学校等）でSBLが活動している例（記述式）

- 小学校で児童に防災について指導している
- 学校の防災訓練に参加し、講評、指導を行っている
- 小学生の防災マップ作りに参加
- 豪雨時の町内会見回り
- 単位町内会の防災訓練を指導／積極的に参加
- 町内会だよりで防災情報を発信
- 所属の単位町内会で防災を推進
- 公募のSBLが女性防災リーダーネットワークの一員として活動
- 町内会行事の実行委員

**6 地域の防災人づくりで取り組んでいること。または取り組みたいと考えていること**  
(記述式)

- 市民センターまつり等で、防災・減災の展示を行った。子ども対象のゲームや、100円ショップの防災グッズなどを紹介
- 防災訓練などで、役割を十分に果たしている人をリーダーに抜擢し、将来は町内会役員に育てたい
- 総合防災訓練等で、関係団体メンバーがそれぞれの役割を果たせるよう指導したい
- 若い人に積極的に活動してほしいが、なかなか難しい
- 町内会役員構成に防災担当を設けるよう行政から強力に指導してほしい
- 防災士の資格を持つ学生と意見交換したい
- 防災士の資格を持つ学生を地域でどう生かすか、連合町内会として考えたい
- SBLとの協議を年2回程度持ち、定例化したい
- 避難所運営協力員の資質向上に努めている
- 市民センターと共催で、防災講座の実施
- 地域に適した防災情報の発信と防災組織づくりに取り組んでいる
- 若手の町内会役員を募集しているがなかなか集まらない
- 婦人部の防災人材育成に取り組みたい

**7 公募のSBLがあまり機能していない場合、その原因は何だと思えますか？(記述式)**

- SBLの知識や実務の程度(実力)が分からないこと
- SBLについてのPR不足
- SBLが日頃から何をしていればいいのか判断できていないから
- 連合町内会との面識がないため

**8 その他**

- SBLは各単位町内会に1人は必要(2地区)
- SBLのフォローアップを(1地区)

## 仙台市地域防災リーダー（SBL）の活動状況・2

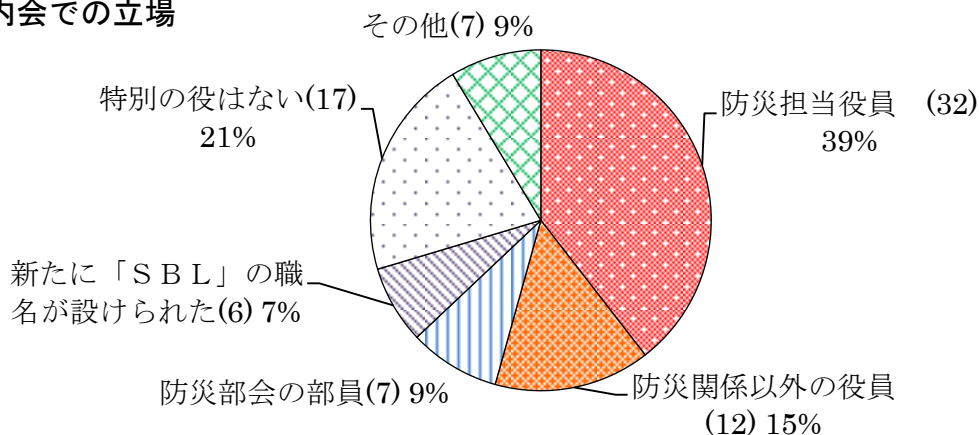
### ■回答 仙台市地域防災リーダー（SBL）

#### 青葉区SBL基本データ

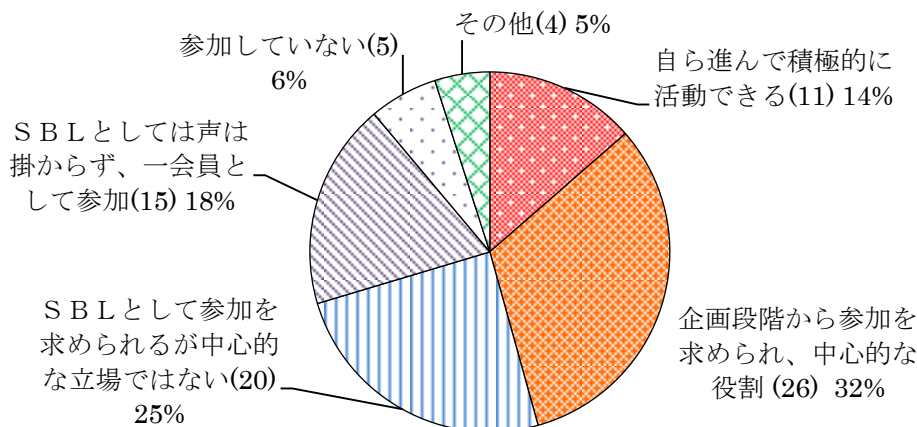
- 平成 24-27 年度 SBL 養成講習会修了者 173 人 平均年齢 65.8 歳（修了時  
内訳） 連合町内会推薦 136 人 公募 37 人 / 男 142 人 女 31 人
- 調査対象者 平成 24-26 年度 SBL 養成講習会修了者 112 人  
内訳） 連合町内会推薦 92 人 公募 20 人 / 男 96 人 女 16 人  
うち回答者 計 90 人（但し、SBLの連合会長 8 名は自由記述のみを集計。  
ほか辞退者 1 名あり）  
内訳） 連合町内会推薦 68 人 / 公募 13 人（上記但し書きの 9 名を除く 81 人中）  
修了年度：平成 24 年度 5 人 / 平成 25 年度 33 人 / 平成 26 年度 43 人

※グラフ中、かっこ内の数字は回答数

#### 1 連合町内会での立場



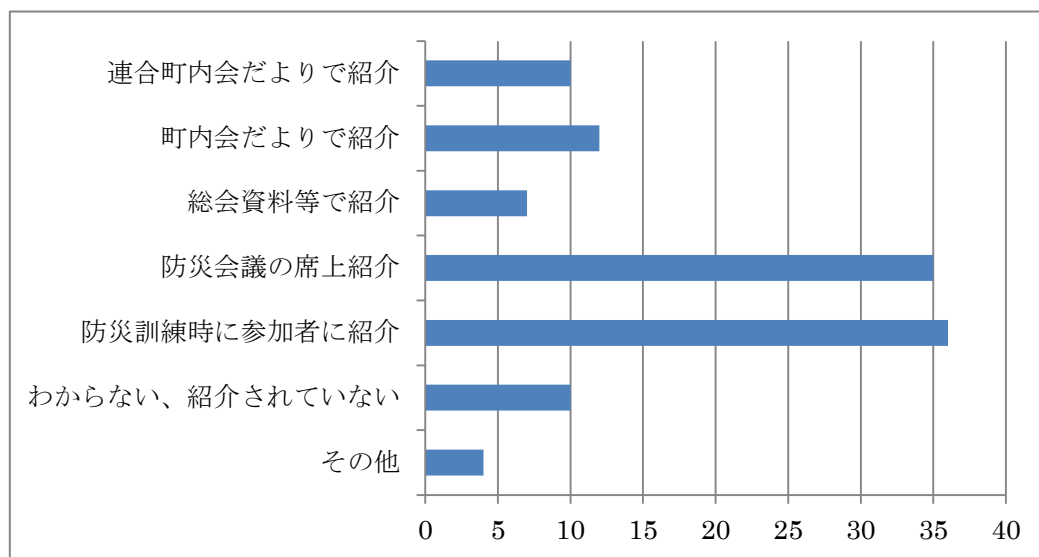
#### 2-1 防災活動への参加状況



## 2-2 防災活動への参加状況（活動内容等、自由記述）

- 連合町内会の防災活動の中心に組み込まれている
- 防災マップ、防災マニュアル作りで中心的な役割を担っている
- 内水害について考え、土のうの準備などを行っている
- 小学校で防災授業を指導
- 児童館の防災訓練で防災の話をしたり、集団避難の引率をしたりしている
- 町内会長として地域の防災活動をしているため、特段SBLとしては活動していない
- SBLとしては認識されていないが、防災担当役員として活動している
- 「防災アドバイザー」に位置づけられている
- 年に2、3回の避難訓練等の連絡係程度
- 単位町内会で活動しているが、連合町内会からの話はない
- 町内会長以上に「口出し」することは好まれず、町内会長で構成する連合町内会では、SBLとしての出番はない
- 仕事をしているため、なかなか参加できない（2名）
- 転居や病気のため活動できない（2名）
- 防災の個人グループで活動しているため、連合会活動に参加する余裕がない

## 3 SBLとして地域に紹介されたことはありますか？（複数回答）



#### 4 地域の防災に関して、自身の発案で取り組んでいること、または、今後取り組みたいと考えていること（記述式、カッコ内の数字は同様の回答数）

○地域版避難所運営マニュアルの作成、見直し（10）

マニュアルに記した各役割への理解を深める／人口が多いため、指定避難所以外の避難者受け入れ可能な施設との協定を進めたい／がんばる避難施設（集会所）の対応／マニュアル作成に向けた各単位町内会の防災力調査

○防災訓練の実施または充実（10）

子どものみ在宅時間帯の発災想定／参加促進／安否確認訓練

○地域関係団体等との連携強化（9）

合同防災訓練、防災研修会の開催／地域の防災協議会の設置  
学区内SBL同士の交流、情報交換

○高齢者ら要援護者への対応（8）

災害弱者のデータ化によるフォロー／65歳以上一人暮らし高齢者対応  
安否確認の目印掲示／避難場所の検討

○防災組織の充実（4）

小学校区単位の防災訓練は大き過ぎ、参加者が限られるため、学区内を4ブロックに分け、ブロックごとの訓練で防災体制を強化する／連合町内会の役員と小委員会をつくり、小学校や市民センターでの避難所開設訓練等を実施／単位町内会に防災部会を設置するよう進めている／単位町内会に防災チームを設け、研修や訓練をする

○マップづくり（3）

防災マップの更新／マップ作りを通じた訓練／大雨、大雪などポイントを絞る

○防災情報の発信（2）

広報紙の発行／備蓄品の説明／自宅避難の紹介

○子ども向け講座等（2）

市民センターと子ども向け講座を開催／児童館の子どもたち向け講座

○震災以外の災害対応（2）

水害、火災対応避難訓練／台風、大雨、大雪時の通学路点検

○設備の充実（2）

河川沿いに防災無線を設置／補助避難所の防災設備の充実

○避難所備蓄食料物資の充実。近隣の商店からの優先調達方法を検討

○いろいろ提案してもすべて却下される。何でも上からの指示

○連合会内で学区が異なるため、実際の場面を考えると活動しにくい

○防災に関する係がない。自分がやっているのは非常食の補充くらい

○現状の取り組みで十分

## 5 SBLとして充実した活動をするためにはどのようなことが必要ですか？

○連合町内会や地域での立場・役割の明確化（17）

避難所開設時のSBLの役割が定まっていない／単にボランティアという位置づけでは後継者がいなくなる／連合町内会や町内会の役職と兼務することが必要／会則に「SBL」を明記する／公募のSBLと地域の連携を行政が支援する／防災組織が複雑化し、SBLとして集中できる環境にない／連合町内会や町内会の役員がSBLの役割に理解を深める

○地域に対するPR（12）

市民の認知度が低い／行政でも広報してほしい／町内会長がSBLを兼務しているところが多く、それが認知度の低さにつながっているのではないか

○知識や技術取得の継続的な訓練（10）

○他のSBLや地域との意見交換、情報共有（5）

SBL同士のネットワークづくり

○SBLの人数を増やすべき（3）

各町内会に1人／各町内会に複数

○統一した服装、無線機等の配備

## 6 自由記入欄

○若い人に防災活動に参加してほしい（2）

○女は（防災のことは）無理と思われており、見ているだけの参加。何のためにSBLになったのか分からない

○災害の危険が少ない地域のため、住民の意識が低い。意識向上に何ができるか考えたい

○避難すべき場合と、自宅避難する場合のマニュアルを作成してはどうか

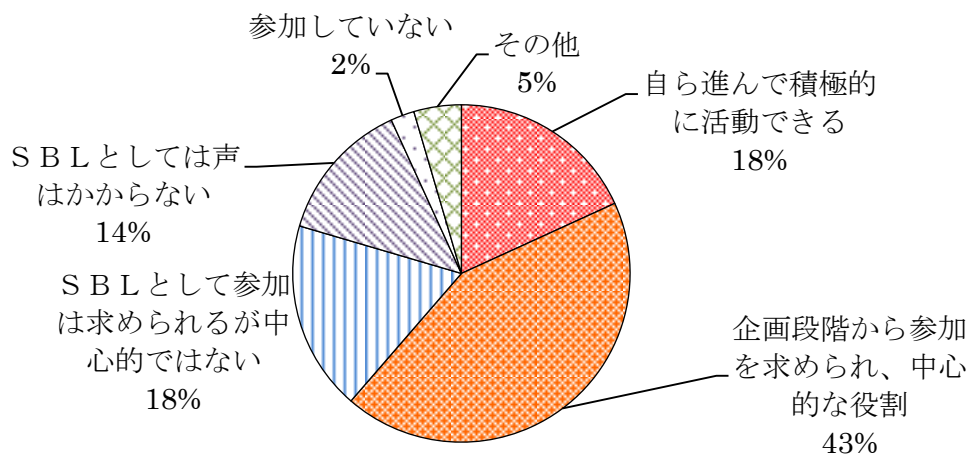
○災害弱者を民生委員任せで良いのか

○震災後と今とでは市民の意識が違う。そうした変化をつかむことも必要

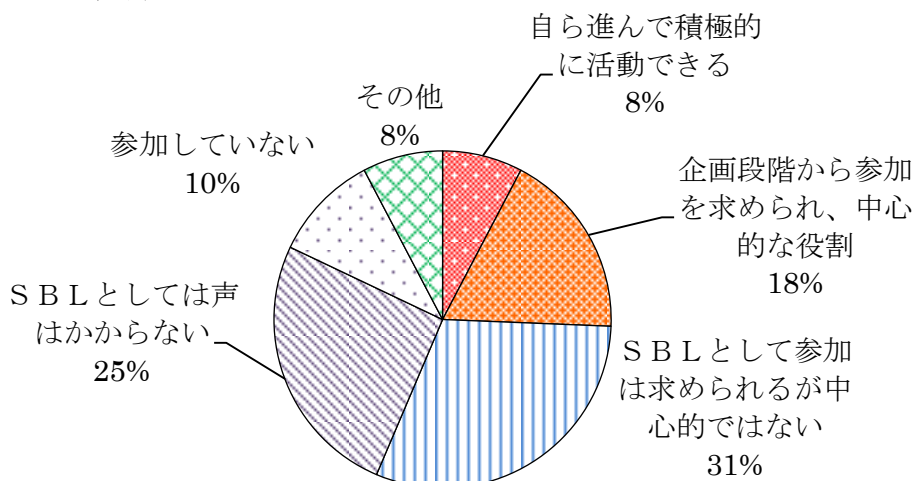
○深夜、未明時の避難勧告等を住民にどう知らせるか方法を考える必要がある

### SBLの連合町内会内での位置づけ別にみた活動状況

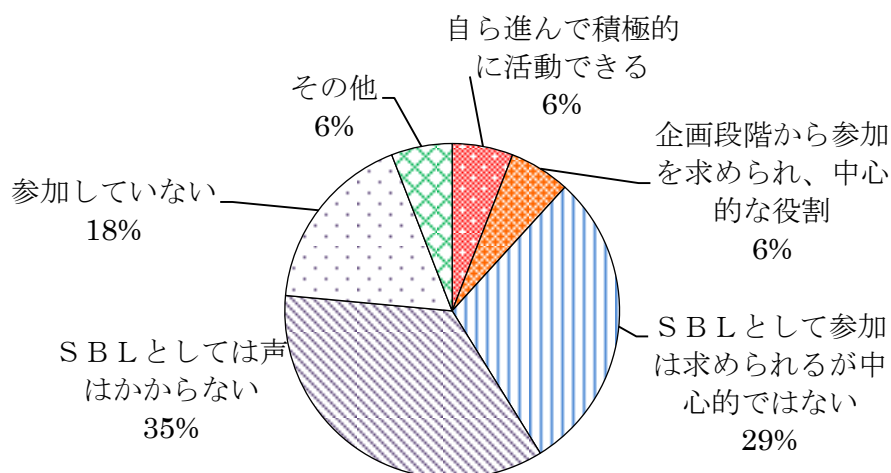
#### < S B L が連合会内で役員の場合 >



#### < 役員でない場合 >



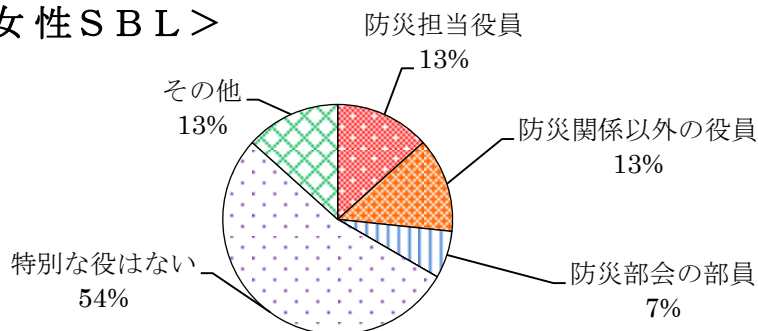
#### < 特別な役職に就いていない場合 >



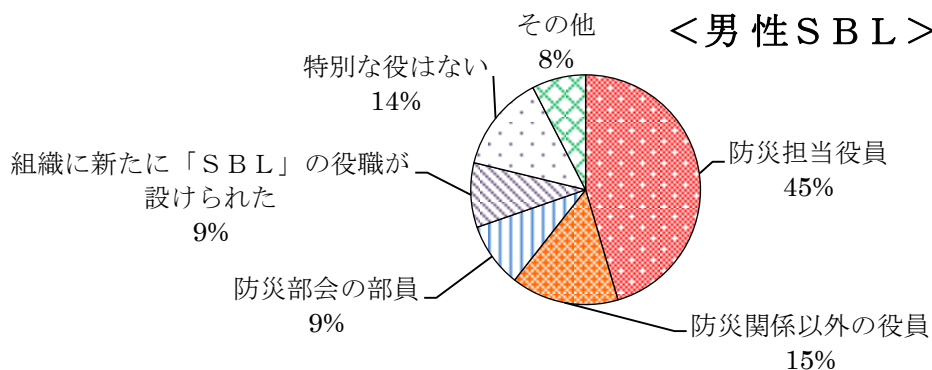


男女別にみたSBLの連合町内会内での役職

<女性SBL>

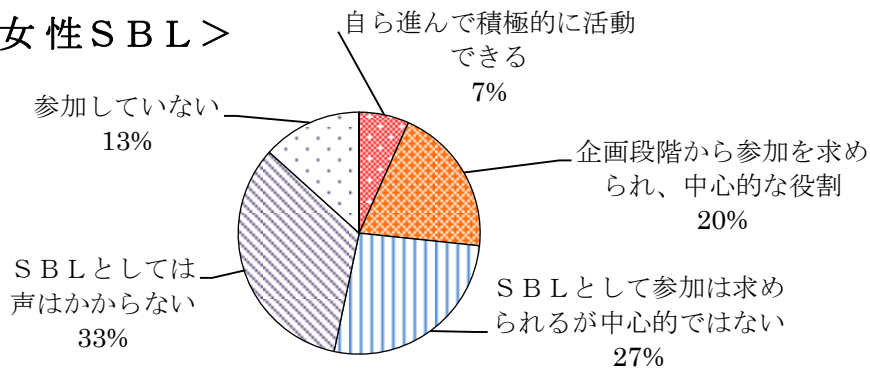


<男性SBL>



活動状況

<女性SBL>



<男性SBL>

